

医療が近い安心のシニアライフへ 病院が手がける介護複合施設が誕生

地域医療に貢献する 中嶋病院がプロデュース

年を重ねるほどに密接となる「医療」や「介護」との関係。それは、暮らしの安心であり、健やかな毎日への希望です。馴染みのある土地で、医療がそばにある安心感を得ながら暮らす。2022年4月に誕生する『care N』は、そんな生活の場として、また前向きな療養の場として注目を集めています。



「高齢者の方の“動くこと”“食べること”の喜びをかなえるため、この施設を立ち上げました」と話す縄田理事長。

シニアライフの選択肢となる『care N』は、1階に通所リハビリテーション、デイサービス、地域交流スペース、2階に介護老人保健施設、3・4階に住宅型有料老人ホームを備える介護複合施設。1953年の開業以来、かかりつけ医として地域に親しまれる『中嶋病院』が手がけ、施設も目と鼻の先。『中嶋病院』を運営する法人「康陽会」は、介護老人保健施設（以下、老健）やグループホーム、訪問看護ステーションなどで地域の医療・福祉

に貢献しており、そのノウハウを生かし、有料老人ホームという新たなチャンネルを加えて『care N』を立ち上げました。

『中嶋病院』の縄田理事長は、施設誕生の経緯をこう明かします。「今、日本では病床再編が進められており、患者さんは短期間での退院を余儀なくされています。回復途中の方とは

でも不安ですよ。特に高齢の方は、退院して終わりではなく、その先も切れ目のない支援が必要です。介護サービスは多種多様になり、その方に合った介護を選べるようになりました。ご自宅か、施設か、介護や医療が必要な人、リハビリが必要な人、人によって状態もご要望も様々です。そこで通所施設、老健に、住まいとしての有料老人ホームを加え、様々な介護の要望に応えられる施設をつくりたいと考えました」



地域に寄り添い、様々な症状の利用者に対応。地域に根差し、拠点となるような地域交流スペースなども設置している。

「動ける」ことは生きる喜び 長い支援で心の健康も保つ

今や、「人生100年」時代。動けなくなることは、生きる意欲の低下にもつながります。『care N』を運営するのは、これまで「動くこと」「食べること」の喜びを支援し続けてきたスタッフ。多くの経験で培ったノウハウを生かし、高齢者のサポートにあたります。

高齢者の場合、脳卒中や骨折などをきっかけに寝たきりになることがあり、それを防ぐために、病院では早期からリハビリを行います。その目的の多くは、住み慣れた環境へ帰ること。しかし、たとえ医学的リハビリが不要になったとしても、いつまでも「動く」こと

ができるよう、『care N』では、入所、通所、訪問のそれぞれでリハビリが受けられる体制を用意。「自分で動ける」喜びを長く継続することができます。



メインが選べる「選べるランチ」や外食気分が味わえる「カフェランチ」など、“食べる喜び”を感じられるイベント食を企画。

食で体の中から支援する 厨房こだわりの料理が評判

また、グループの厨房で作る食事は味に定評があり、メインを選べるランチ、ご当地グルメを盛り込んだ食事など、趣向を凝らした内容で食べる喜びを提供します。「リハビリに必要なのは患者さんの意欲。それには食が欠かせません。厨房スタッフはおいしい食事で利用者を支えたいという思いが強く、ソースも一から手作りするなど、味や見た目にもこだわっています。リハビリを強化した施設で、満足度の高い食事を楽しみ、動くこと、食べることの喜びを活力に変えてもらいたいです」

つなぐ/つながる 地域の新しい介護のカたち

介護複合施設



2022年4月誕生

医療が近くにある心強さ、リハビリで湧き上がる前向きな気持ち、食事を感じる喜びやわくわく感。医療と福祉サービスの連携が、充実のシニアライフをサポートします。

HPはこちら

